

平成19年度 滝上町施政方針

▲はじめに▼

私は、去る4月に行われた統一地方選挙におきまして、町民の皆さまの絶大なご支援をいただき、無投票当選の栄に浴し、滝上町長に就任いたしました。誠に光栄に存じますとともに、滝上町の将来を負託されたことに、その責任の重さを痛感しているところであります。

わが国の経済状況は、「いざなぎ」景気を超えたといわれております。しかし、回復基調にはあるものの所得環境については依然厳しく、社会保障の負担増ばかりが目につき、生活実感とは程遠いものがあります。都市部と農山漁村との格差は拡大の一途をたどっているように思えてなりません。

国の財政につきましては、危機的状況は依然として続いており、三位一体の改革により、地方自治体の要である地方交付税は引き続き削減され、税源移譲はなされてきているものの、結果的には大都市と小規模町村の格差拡大に拍車

をかけるものになっていきます。

滝上町の財政も、ご承知のように厳しい状況下にありまします。このような時代に町政の舵取り役を任せられたことに對し、その重責に思いを致すところでありまします。ピンチをチャンスととらえ、町民の皆さまとの「協働」作業でまちづくりに取り組みたいと思っております。財政面では先に策定された「行財政改革実施計画」を指針として、また産業・文化・人といった滝上町の資源を活用して、きらりと光る町にするために、全力で町政運営にあたっております。

▲町政執行にあたっての基本姿勢▼

先ず、これまで2期8年町政を担当してこられました澤田前町長の任期中において、町財政の要である地方交付税が3分の1にあたる10億円が削減されるなか、数々の困難な行政課題に對し、行財政運営にあたっております。このご功績ご労苦に對して敬意を表し感謝申し上げます。

いま、国と地方は膨大な借金を抱え、地方交付税が大きく減少するなか、行財政改革、地方の自立を求めた分権時代に入っております。私は、この時代の大きなうねりをしっかりと見極めて行政運営にあたっていかねばならないと思っております。町政をすすめるにあたっては、生活者重視の立場で町民の皆さまのところ（現場）に向き、声をよく聞き、総合的に判断していくという現場を大切にする政治姿勢で臨む所存であります。

いく上で何が重要かといいますが、やはり財政の基盤がきちんとしていなければなりません。マスメディアも自治体の財政数値を公表するようになっております。最小の費用で最大の効果をあげる費用対効果を考えながら町政をすすめてまいりたいと存じます。

▲町勢振興のための基本方向▼

次に、私の任期中における町勢振興のための重点事項についてご説明させていただきます。

本町の基幹産業は農業・林業・観光であります。農業・観光を中心とする「農業振興公社」を中心とする支援体制が整備され、その成果が徐々に現れてきております。農業経営の効率化を図るため、農地の集積などのソフト事業に取り組んでまいります。また、若者の意向等を参考に後継者・担い手対策に取り組みます。農林水産省との連携・相談の関係を広げながら、各種政策の実現を図ってまいります。



滝上町は自立を選択しました。賢明な判断をしたと思っております。地域が自立して

滝上町施政方針

林業・林産業につまましては、森林は元来多面的な機能を持ち、特に近年は地球温暖化の問題が顕著となり、環境保全分野で注目されており、木材利用から水・土保全、環境重視の事業拡大について、国をはじめ関係機関に要請してまいります。

本町の林業にとって、林業協同組合の果たすべき役割は今後ますます重要であります。当組合の事業に対して支援してまいります。

いま、二酸化炭素の削減が世界的な命題であります。本町は、農業・林業などバイオマス資源が豊富であります。すでに木質ペレット、ピンチツブなども生産されているところから、エネルギー関連業界とも十分に協議し、資源循環型のエネルギーの確保を目指すため、バイオマスを効率的に利用する総合的なシステムである「バイオマスタウン構想」や「新エネルギービジョン」の策定に取り組みたいと考えております。

いままでの観光の柱は「芝

ざくら」でありましたが、遠く紋広域で取り組んだD.O.いなか博以来、溪谷が注目を浴びるようになり、「美しい日本の歩きたくなる道500選」に認定されました。また、個人の花園がありますが、「陽殖園」がテレビや雑誌で取り上げられ、この春単行本としても発売されて、全国から注目を浴びております。また、「キャッチアンドリリース」

についても経済産業省が取り

上げるなど、いま本町の数多くの観光資源が脚光を浴びています。これら官・民の観光資源を有機的に関連させ、滞在型観光を重点にプロモーションとコマース活動の働きかけをトップセールスし交流人口の拡大に努めてまいります。同時に核・芯となる人材（ガイド等）の育成・確保にも取り組んでまいります。

17年前の山口町政時代に

「童話村構想」が生まれました。いまでいうエコ社会、生態系を壊さない環境にやさしい循環型のまちづくりであります。本町の持つ都会にはない風景・風土・環境は、「ロハス的」時代の要求するところ

でもありません。滝上町の観光は、いま大きなチャンス到来だと思っております。この好機を逃さず着実なものにしていく必要があります。

ホテル溪谷については、民間の感覚を取り入れた経営戦略を展開したいと考えております。このことによって赤字の縮小を図りたいと存じます。

町内企業を取り巻く環境は大変厳しい状況にあります。

企業振興促進補助金は、要綱を一部改正し継続して実施してまいります。地場産品振興会についても引き続き支援し、融資制度についても継続して実施してまいりますと考えております。

また、体育施設等を有効活用し、スポーツや文化活動の合宿の誘致に努めてまいります。

行財政改革における組織機構・職員数の問題であります。私の任期中に住民ニーズを踏まえつつも、時代を見据え、人口規模にあった簡素で効率的な行政機構に見直しをいたします。「行財政改革実

施計画」でスリム化の方針となっておりませんが、その見直しを含めて検討してまいります。ただ単純に人口比率のみで判断できる訳ではありません。地方分権における権限移譲での事務量の増加や、病院や保育所等の福祉関連事務における職員配置基準の問題など、解決しなければならぬ課題もございます。

また、広域連合制度を検討している西紋別地区町村会の議論については、真に目的にかなっているかを見極め慎重に対応してまいりたいと考えます。

町民がより主体的な立場で自治意識をもってまちづくりに参加できるように「まちづくり審議会」（旧「行政懇談会」見直し改称）を設置いたします。

町内会の自主的なまちづくりを支援することを目的として「まちづくり地区担当制」をスタートいたします。

さらに「童話村町普請（まちぶしん）事業」を実施いたします。従来の「町内会元気種まき事業」を見直し、改称